

バイオサイエンス学科

1. 教育研究上の目的

本学科は、原核細胞から真核細胞，さらに動物・植物の個体レベルにおける，生命現象の分子機構の理解と研究を通して，生命現象の本質を理解し，生命科学を利用して社会貢献できる人材，さらに，研究や開発等の生命科学領域で幅広く活躍するための礎となる深い洞察力と問題解決能力を身につけた個性豊かな人材を養成する。

2. 教育目標

バイオサイエンス学科は、その人材養成目的を踏まえ、次のような者の養成を教育目標とする。

- (1) 生命科学分野における専門知識と技術を修得し、それらを活かして社会に貢献する能力を有する者
- (2) 修得した知識や成果を的確に伝えるプレゼンテーション・コミュニケーションの能力を有する者
- (3) 論理的思考能力と問題設定・解決能力を有する者

3. ディプロマ・ポリシー

バイオサイエンス学科は、生命現象の本質を理解し、生命科学を利用して社会貢献できる人材を輩出するため、教育目標に基づいて設置した授業科目を履修して所定の単位数を修得し、卒業論文を提出することを学位授与の要件とするとともに、以下の能力を備えた学生に学位を授与します。

- (1) 自然科学・社会科学の両分野にわたる基礎的・基盤的知識の修得と同時に、本学科の目的とする生命科学分野における基礎的・基盤的知識を修得し、それを基に専門的かつ最先端な知識や技術に関する能力を身につけている。
- (2) 卒業論文の作成を通して、課題探求力、情報収集力、批判的・論理的思考力、問題解決力、情報処理能力、文章表現力、プレゼンテーション力、英語読解能力などの能力を身につけている。
- (3) 実験実習や研究室活動を通して、集団内でのコミュニケーション能力、リーダーシップ能力、ディスカッション能力、協調性や対人関係の構築力、対外的に正確な情報を発信する能力などを身につけている。
- (4) 食料、健康、環境に関する諸問題を、生命科学を利用して農学の観点から自律的に解決できる能力を身につけている。

4. カリキュラム・ポリシー

バイオサイエンス学科は、本学の教育の理念「実学主義」に基づく総合的な農学教育を根幹として、生命科学分野における実践的な専門知識・技術を修得し、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を身につけるため、以下の方針のもと教育課程を編成します。

- (1) 基礎的・基盤的知識の修得と生命科学に係る実践的な専門科目を体系的に学ぶため、「総合教育科目」、「外国語科目」、「専門教育科目」の3つの科目区分により授業科目を配当する。また、効果的な学修を行うため、各区分内において基礎から応用への段階的な科目配当を行う。
- (2) 「総合教育科目」には、「導入科目」、「スポーツ関係科目」、「課題別科目」、「就職準備科目」および「リメディアル教育科目」の区分を設け、大学での就学方法等を修得する科目や専門教育の動機づけとなる授業科目を配当する。併せて、学修内容を将来の進路に繋げるための準備科目を配当する。さらに、基礎学力を補うための補習科目も配当する。
- (3) 「外国語科目」には、異文化理解および国際的視野を形成するための実践的な語学科目を配当する。
- (4) 「専門教育科目」には、「学部共通基礎科目」、「学部共通専門科目」、「学科専門科目」の区分により授業科目を配当する。「学部共通基礎科目」および「学部共通専門科目」は、学部の性質上修得することが望ましい基礎・専門科目を配置する。また、「学科専門科目」には、「専門基礎科目」、「専門コア科目」、「学際領域科目」および「総合化科目」の区分を設け、生命科学の基礎科目をはじめ、動物・植物・細胞分子機能の各分野に特化した最先端の知識を修得するための科目を配当する。また、修得した知識と技術から専門性の高い卒業論文研究に導くためのステップアップとなる科目も配当する。

5. アドミッション・ポリシー

バイオサイエンス学科では、まず生命科学に強い興味を持ち、さらに環境問題・健康などにも興味を持つことにより、グローバルな視点でこれらの問題解決にチャレンジする人材を育成します。そのため、次のような学生を求めています。

- (1) 生命科学に関する知識を学習・理解し、それを応用することができる。
- (2) 幅広い視野から問題意識を持ち、論理的に考えることができる。
- (3) 生命科学を基盤に食料・健康・環境等に強い関心を持ち、それらの問題解決に意欲的に取り組むことができる。
- (4) 実験・実習・演習等を通して学びに強い関心があり、多様な人々と協働して学ぶ姿勢を有している。
- (5) 正しい技術を身につけ、自分の知識や考え方を的確に表現し伝えることができる。